

生命あふれる豊かな森を次世代へ――

くまもり森と人

2023. 夏
vol.1
Total 114



自然を守るために私たちができること。

人とつながり、
社会を動かしていくことで自然を守ろう

第26回 くまもり全国大会 基調報告

特集 防災の視点から風力発電計画を考える

クロちゃん追悼



日本にも本当に自然を守ることができる大きな自然保護団体を作ろう！

日本には真に自然や野生動物を守ることができる法律がありません。
法律をつくるためには、たくさんの会員に支援された大きな自然保護団体が必要です。
ぜひ、会員の輪を広げていくことにご協力ください。

入会案内

入会手続き・ご寄付・年会費の納入が、
郵便局・銀行に行かなくてもお手軽にできます。

クレジットカードでのご寄付・年会費の納入がウェブサイト
からできるようになりました。

■使用可能カード

VISA Card
Master Card



郵便局・銀行口座から
の振込み・自動引き落としも、今まで
どおりご利用いただけます。

●会費用 QRコード ●寄付用 QRコード

■会費・寄付のお振込先

①郵便振替

口座名/熊森基金 00970-8-137360
他金融機関からは 099店 普通0137360

②銀行振込

三井住友銀行 西宮支店 普通8558663
口座名/一般財団法人 日本熊森協会

個人会員

※ご入会の次年度からは、毎年1月に
年会費の納入をお願いいたします。

①正会員

年会費6千円以上(学生半額)
年2回会報 年1回事業報告書 送付
※ご入会年のみ月割納入が可能
(月額500円)

②応援会員

以下A~Dより、ご自由にお選びください。
年2回会報 年1回事業報告書 送付
(A)5万円以上 (B)3万円以上
(C)1万円以上 (D)1000円以上

③特別会員

年会費10万円以上
特別会員特典あり。
年2回会報 年1回事業報告書 送付

④家族会員

会員①~③の同居家族(会費不要)

法人会員

※詳細は事務局までお問い合わせください。

①企業会員(年会費一口6万円)
②団体会員(年会費一口3万円)

※より分かりやすくなるよう会員種を検討中です。詳細は次号でお知らせします。

【編集後記】

室谷：新しい仲間がわり、試行錯誤で作った会報はいかがでしたか？子どもをよく見てくれていた義父が4ヶ月の船の旅へ。その間子どもを熊森へ連れていく機会がさらに増えるかもです。よろしくお祈りします。

高野：会報づくりに参加して、より良い冊子の創造へ気持ちが膨らみました。次号も関わられるのなら、offに十分議論しておきたいですね。

川崎：本号から編集のお手伝いさせていただきます。届いたらすぐに開いて読みたくなる会報を目指します。

米田：かつてくまもり通信の作成に携わっていました。野生動物のすむ水源の森を次世代へ、変わらぬ思いが進化した紙面に込められています。

脇井：白黒手刷りの会報vol.1から27年。変わらぬ活動の真髄、詰め込んで届けます。2人の子どもの母になり願うは「豊かな森を次世代へ」

吉井：これまでとは違って、0からの作業でしたが、高野さんと川崎さんという大きな力のおかげで何とか完成まで辿り着きました。色々な方に読んでいただきたいです。

工藤：会報を作りながら風力の問題に取り組んでいました。8月頭には計画地の町の町長選があり推進派の現職を退けて反対派の新町長が就任しました。まだ奥羽山脈を守れるかはわかりませんが大きな一歩、うれしいです。

編集長 室谷 悠子(会長)
校正 川崎 浩(前東京都支部長)
デザイン 高野 哲史(神奈川県支部長)
本部スタッフ 米田 真理子
脇井 真理子
吉井 陽子
工藤 真那

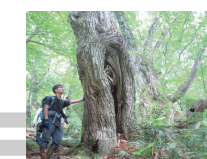


実践自然保護団体

一般財団法人 日本熊森協会

〒662-0042 兵庫県西宮市分銅町1-4 電話 0798-22-4190 FAX 0798-22-4196
受付時間:10時~18時(日・水・祝日は休み)

禁止



【表紙写真】
原生林ツアーで訪れるクマ生息地
広島県芸北町臥龍山(がりゅうさん)

巻頭言 会長 室谷悠子……………2

大会報告 第26回くまもり全国大会……………4

特集 防災の視点から風力発電計画を考える……………6

野生動物保護 滋賀県庁・京都府庁訪問記……………9

捕殺に頼らないシカ対策を全国に！……………10

開発を止めるために、猛禽類の調査を開始!!……………11

森保全 絶滅寸前四国ツキノワグマの餌場復元……………12

えひめ千年の森の視察・研修会……………14

地域活動 新潟県の動物園で初のくまもりイベント!……………15

支部活動 青森県支部 支部長あいさつ さあどうする、青森県支部……………16

愛知県支部 支部長あいさつ 定例会に来てください……………16

埼玉県支部 嘉田由紀子講演会を開催……………17

トピックス (祝)東京の山初トラスト!……………18

環境教育 宮崎県支部・本部 全国一の林業県で、くまもり環境教育……………19

ほごくまたち 太郎とくまこ……………20

とよ……………21

クロちゃん追悼……………22

顧問・企業会員・団体会員……………23

入会のご案内・編集後記……………24



国有林を再エネ開発から守って！青山豊久林野庁長官（写真中央）に、室谷会長（写真右端）と宮城県の「加美町の未来を守る会」猪股弘共同代表（写真左端）が、要望書を提出し日本の森林の3分の1を占める国有林で、水源の森生物多様性・水源保全、災害防止のためにも国有林長官は、「水源を守ること、土砂流出防備は我々林野庁の1丁目1番地。しっかり見ていきます」とおっしゃられました。

巻頭言

人とつながり、 社会を動かしていくことで 自然を守ろう

会長 室谷悠子

これまで年4回だった会報『くまもり通信』が、今年から年1回の事業報告書と年2回の会報にリニューアルし、編集メンバーも新しくなりました。

これに伴い、会報のタイトルも変更することに、検討を重ねました。

私たちが守りたい豊かな「森」と森をつくる生きものたちの象徴である「クマ」は入れたい。でも、それだけでは足りない。「人」が入り、『くまと森と人』となりました。

熊森の進める自然保護は、野生動物や自然を人間の都合で管理・コントロールすることではなく、自然を自由に、瞬時に破壊できる力を持つてしまった「人間」が自らの生存基盤である自然を破壊しないよう人間活動をコントロールすることです。

そのためには、同じ思いを持つ、たくさんの人とつながり、社会を変えていくことが必要と考え、「人」は外せないと思えました。

結果として、57万部売れている初代会長の森山まり子が、熊森の誕生秘話を綴った小冊子『クマともりとひと』と同じタイトルになりましたが、それも必然の気がします。

私たちの自然保護活動は、自分たちの利益のためではなく、文明の方向転換をめざした、物言えぬ生き物たちと、次世代のためのものです。そして、その実現には、たくさんの方の協力が不可欠です。

本気で、豊かな自然を守りたい人をつなげ、大きな力に！

今日も、熊森の会員・スタッフが全国各地で活動を展開しています。みなさんもぜひ、活動の輪を広げてください。



三重県支部では三重県多気郡にある（公財）奥山保全トラスト所有の池ノ谷トラスト地（408ha）の保全を県外会員の参加も得てお手伝いしています。大雨が続くと、池に倒木が流れ込むので対策を検討中。4年前から池周辺に植樹を始めました。試行錯誤の末、鹿猪対策でワイヤー入ネット & パッチワーク方式で苗木を囲っています。池ノ谷の自然を守り育てるためにこれからも力を合わせて取り組んでいきます。

無断転載禁止

全国支部長研修会

4月15日夜～16日



建設20年が経過する 大規模風車群を視察、 改めて開発の恐ろしさを実感。

現地参加とオンライン参加も含めて、
延べ19名の参加になりました。

研修1日目は座学。2日目は三重県の青山高原にある風力発電施設を、地元で反対運動を長年続けている歯科医武田恵世氏の案内で視察。国立公園である青山高原には89基の風車が建ち、古いものは20年が経過しています。ブレードが回転するたび、空気を切り裂くような音が周囲に響きます。

風車建設のために切り開かれた高原では至る所で斜面崩壊が起きており、山を風車で開発することの恐ろしさを実感しました。



武田恵世氏

**巨大風車群から八甲田を守りたい
くまもり青森県支部長 石戸谷 滋**
3月11日に発足した青森県支部ですが、結成早々、八甲田山を大規模に開発する「みちのく風力発電事業」の白紙撤回へ向けて活動しています。新しい県知事や青森市長などは現在、「白紙撤回」の意思を表明していますが、事業はまだ

**宮城県 全国初の再エネ課税条例
衆議院議員 庄子賢一氏(東北比例区)**
宮城県の県会議員を18年務め、昨年10月に国会議員になりました。再エネの問題にも関わったことがあります。今、宮城県は県知事が音頭を取り、0.5ha以上の「森林を開発し」再エネ事業を行う事業者に課税を行う条例制定の準備を進めています。良い形になるのであれば、全国にも広めていきたいです。



顧問挨拶

- 【左上】 参議院議員 嘉田由紀子顧問
- 【右上】 参議院議員 片山大介顧問
- 【左下】 衆議院議員 和田有一朗顧問

中止されています。八甲田連峰は青森県のシンボルであり、一度破壊されれば回復に何百年もかかります。わずか20年の利益のためにそんなことを許してはならないと、支部のメンバーは熱い思いです。



活動報告

- 【左上】 本部クマ保護担当の水見竜哉
- 【右上】 本部森保全担当の羽田真尋
- 【左下】 本部環境教育担当の工藤真那
- 【右下】 事務局長の森菜々



支部報告

- 【上】 神奈川県支部の 関根裕子支部長代理
- 【下】 大阪府支部の 今井奈保子支部長



赤松正雄 顧問

終わりの言葉 熊森顧問
元衆議院議員 赤松正雄氏
コロナ禍から3年、ウクライナの戦争が始まって1年余り。「分断」といわれるこの世界の中で、ぜひともこの熊森協会から分断ではなく、融和や、連帯を保っていけるような運動を起こしていきたいです。



生きものたちの森をまもるため 手を取りあって進もう!

第26回 くまもり全国大会開催

4月15日(土) 兵庫県尼崎市 ホテルヴィスキオ

青森から宮崎まで、会場には定員いっぱいの140名の方が参加されました。



室谷 悠子 会長

よりのこころ、地域とともに

会長 室谷悠子

全国各地で、水源の森をメガソーラーや巨大風車群による破壊から守るために奔走しました。全国に支部があり、会員がいるからこそできることです。くまもりが、自然を守りたいと本気で願っている皆さんに支えられていることを、会長として誇りに思います。

特別報告 東北の豊かな森を守れ!! 地域と共に、再エネによる森林破壊に立ち向かう

メガソーラーや巨大風車による森林大破壊からふるさとの森を守るため、粘り強く立ち向かう東北の仲間たちの活動を集めました。

メガソーラーから森と地域を守る

「耕野の自然と未来を考える会」
共同代表 宮城県丸森町 義高光氏

全戸井戸水で暮らしている耕野地区で、土砂災害警戒区域にはさまれた場所に2つで合計115haという巨大メガソーラーが計画され、2021年に宮城県の一部に林地開発許可を出しました。私たちは、全国再エネ問題連絡会やその事務局である熊森協会とも連携し、公開質問状や県への要望書提出、事業者の刑事告発、経産省への訴えなどあらゆる働きかけを続けています。着工前まで止まっていますが、業者は白紙撤回をしたわけではなく、まだまだ道は半ばです。我々には2つの道があります。このまま自然を破壊されるのを任ず安易な道か、歯を食いしばって自然破壊を止める困難な道か。どうか、私たちが困難な道を歩くことに力を貸してください。

巨大風車群から町を守りたい

「加美郡の風力発電を考えるネットワーク」
宮城県加美郡加美町 小林貞子氏

人口2万人の小さな町に、3社で合計150基を超える大規模風車の建設計画があり、1社はすでに工事を始めています。近隣自治体の大崎市や色麻町の首長は反対を表明していますが、加美町長はむしろ風力発電を推進しており、私たちは非常に困難な状況です。町民に風車計画の問題点を伝えるために何度もチラシを作り、町や議会に2万4千を超える反対署名や要望書の提出、議会への請願書の提出、監査委員への住民監査請求など行いました。この冬には渡り鳥や猛禽類の調査も実施し、様々な場所で熊森協会の方々に協力いただきました。応援して下さる方のためにも東北の山の自然を守らなければならないと地元に住む者としての責務を感じています。

無断転載禁止

特集

尾根筋の大規模開発はこんなにも恐ろしい。 防災の視点から風力発電計画を考える

4月27日、地域防災などを専門とする山梨大学 鈴木猛康 名誉教授と室谷悠子会長、本部スタッフらで、宮城県加美郡で計画が進められている風力発電施設の建設予定地を視察しました。その後、風車建設に反対する地元団体「加美郡の風力発電を考えるネットワーク」が勉強会を開き、鈴木先生に講演をしていただきました。以下に講演要旨をご紹介します。



宮城県加美町の山林視察 2023年4月28日



尾根は海までつながっている 出典：防災工学（鈴木猛康）
尾根の森林伐採、切土・盛土→麓への土砂流出→集落への土石流襲来
→水の汚染・河川氾濫→海水汚染・沿岸地形改変・漁業や観光へ影響

加美町のこの地域は氾濫した水はすぐに出ない地形です。よね、だから溜まってしまう。そして、最後は土砂と水が海まで流れていきます。土砂が沿岸地形を変えていきます。江戸時代のたたら製鉄のご存知ですか。花崗岩の風化した土壌

大崎市や加美町というのは、奥羽山脈から一気に水が流れ込んで氾濫が発生する地形です。これを何とか止めていたのが、尾根の森林です。十分に保水能力があつて、雨は、まず葉が受けとめて、幹を通して、根を伝い地中に入り込んでいく。広葉樹ですから、根が岩盤の亀裂深くまで入るんです。ぜひ、山に行った時は山の斜面にどんな亀裂が入ってるかごらんになってください。亀裂に全部根が入っており、根には菌糸がちゃんと付いて、山を押さえ、なおかつ水をそこに溜めてくれるんです。森を伐つてしまつたら貯めるものがないので、ダムのない河川と同じで、一気に川に流れってきます。

■風力発電開発の結果、加美町に起こる災いとは

尾根を削ると山から海までの地形が変わる。風力発電の作業用道路を作るためには、何10mという幅で尾根の樹木を伐り、土を切つて盛ります。そうすると、もはや菌糸は育ちません。当然木も生えませんが、土壌はバサバサになり、雨が降ると流れます。土砂が斜面を流れていって、谷筋に入つて、谷筋から今度は大きな石も伴つて、川に流れて行く。尾根からどんどん崩れて谷間に土砂がどんどん流れ、土砂が畑とか田んぼの一部を襲うというところから始まり、集落を襲つて、川に流れてくると、土砂が川底に溜まります。川底に土砂が溜まると水処理する能力が減り、洪水が発生すると川が氾濫します。

■減災と増災

鈴木猛康氏
(山梨大学名誉教授特定非営利活動法人防災推進機構理事長。専門は増災・減災に関わるハード技術からソフト施策)



私は、国立研究開発法人防災科学技術研究所に勤めていた時、減災があるなら増災もあるだろうと有名な先生に指摘されました。災害の発生時、被害を最小限にするというのが減災です。これに対して、増災というのは、被害を悪化させるだけではなく、被害発生のリスクを大幅に高めることと私は定義しました。防災というのは、国土開発とか都市開発とかエネルギー政策においては、一方を追求するともう一方を犠牲にしなければならぬというというトレードオフの状況で発生します。開発がやむを得ない場合もあります。100年後、日本列島が荒廃してしまうような開発はだめ、加美町で計画の中の大規模風力発電は、実は増災に該当します。

●達染川に沿った土石流の流れ



熱海伊豆山地区の土石流の教訓
上流の開発を許すと、住宅地では一生災害発生に悩まされる

■土石流は尾根の開発から熱海の災害を例に

2021年に熱海で土石流災害がありました。右図の青線で囲んだ部分が土石流が襲つたところです。盛土は1.2キロの上流から流れてきました。この災害がなかったら、これだけ離れた山での開発を下流の住宅地の迷惑になるから止めろと言ふ人はいなかったでしょう。熱海市も静岡県も開発を止めてはならず、事故が起こつてから色々と言ひ訳をしていますが、そもそもこれを開発するべきではなかったのです。広島の土石流災害でも同じ様な事が起こっています。山の一番上の尾根を崩すと、土砂が全部下流まで流れ下り、平野を覆つて最後は海に流れるんです。

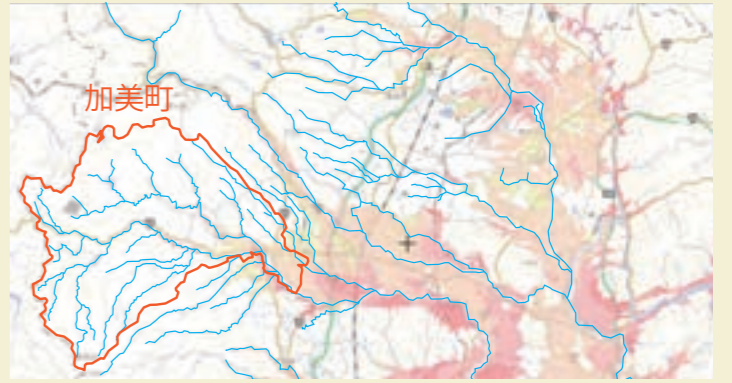
■おいしい水をつくる木の根と菌糸の役割

山の尾根の地面を見ると木の根が絡み合うようにつながっています。根には、菌根菌という菌糸がついていて、菌糸と根が両方あつて、初めて木が育ちます。空から雨とともに降ってくる窒素は有機の窒素で毒があり、そのままでは木は栄養を取れません。これを無機にしてくれるのがこの菌糸です。菌糸が変換した無機体の窒素を根が吸収しています。木が窒素を吸収せず、全部流すと富栄養化が起こり、それが地下水の源泉になるので、地下水が汚染されます。きれいに窒素が吸収されて、樹木の方に伝わってゆくから、おいしい水が飲め、おいしいお米ができます。



表土が薄く崩れやすい尾根を広葉樹の根が守っている。

無断転載禁止



国土地理院、重ねるハザードマップを加工。色のついた部分が洪水浸水想定区域。山を削ると洪水の範囲や規模が広がることにつながる。

この地域の氾濫シミュレーションの結果を見ると真っ赤に塗られています。これだつて5〜10mの浸水ですよ。現在でも、1000年に一度ぐらいの雨が降るとこうなるのですから、尾根の樹木を切ってしまうと、これがもつとひどいことになるんです。

この辺りは、ダムからも取水して飲料水にしていますよね。あのダムに土砂が流れ込むようになる、水自体も汚れます。それにとどまらず、麓の集落で幾つか土石流災害が発生すると思います。つぎに鳴瀬川の支流とか本流に大量の土砂が流入してくると河川氾濫が起きます。その土砂が今度は太平洋まで流れていって、これまでできていた漁業ができなくなるかもしれない。そして、すごくいい海水浴場に、泥が混じって、沿岸の地形まで変わるということが起きます。当然、生態系も変わります。10年後や20年後に気がついてもう遅いんです。海岸の地形が変わったぞと、漁師が言い始めた時はもう遅いのです。

住民のみなさんは、このような大規模な発電施設を受け入れたら良いのか、悪いのか。受け入れるのであれば、大丈夫だという根拠を、国や自治体に示してほしいと言っているわけですね。単に今年、来年の、『今だけ金だけ自分だけ』ではなく、よく将来のことについて考えないと、取り返しのつかない結果を招くと、強い危惧を感じています。

【書籍の紹介】 『増災と減災』 行き過ぎた再生可能エネルギー開発による災害への警告



鈴木猛康著

鈴木先生が、現代の増災として、行き過ぎた再生可能エネルギー開発とグランピング開発という2つの増災の可能性を取り上げている書籍が、5月に刊行されました。より詳しく知りたい方は、ぜひ読んでみてください。

■熊森顧問就任のメッセージ

鈴木先生は今年5月、熊森顧問にも就任くださいました。以下は先生のごあいさつです。

この度、熊森協会の顧問を拝命しました。私は1956年に京都府京丹後市の小さな盆地で生まれ、山野を遊び場として幼少期を過ごしました。学生時代は応用地質学の師に就いて、山の沢筋を歩いていました。社会人になってからの地震工学、防災工学、地域防災学の研究において、幼少期の体験や学生時代の地形学や地質学の知識は大変役に立っています。

森林の急斜面に建設中のメガソーラー発電施設について、山梨県議より相談を受けたのをきっかけとして、再生可能エネルギーによる森林破壊の問題に、防災の専門家として関わりました。現地へ赴いて土砂災害発生の危険性と地区住民の苦悩に接し、行政の皆さんと協力して、行き過ぎた再生可能エネルギーの開発抑制のために活動するようになりました。2021年には森林には原則として太陽光パネルを設置しないという山梨県の条例制定にも関わりました。熊森協会とは、森林の岩盤の亀裂に根を張り、土砂災害の発生を防止し、地下水を涵養する広葉樹林の保全について、その意義を共有し、一緒に活動する機会を得ました。森林に入り、幼少期や学生時代を思い出して楽しみつつ、我が国の財産である森林の保全に貢献できれば幸いです。

クマ捕殺、5年間で2頭と、622頭なぜ？

滋賀県庁・京都府庁訪問記

本部 研究員 羽田真尋

滋賀県と京都府は隣接していますが、クマに対する対応はかなり異なります。滋賀県で令和4年までの5年間で捕殺したクマは計22頭、対して京都府は同じ期間に622頭ものクマを捕殺しています。違いの原因を探るべく、本部から森山、水見、羽田、吉井が双方の担当部署を訪れました。京都府庁には、京都府在住のジャーナリスト山本節子さんも同行くださいました。

●滋賀県は生息数が一定として、錯誤捕獲クマを放獣

滋賀県ではクマ生息数はずっと横ばいとされており、第一種特定鳥獣保護計画によって保護されています。シカやイノシシの箱罾やくくり罾に錯誤捕獲されたクマは(株)WMO(野生動物保護管理事務所)に依頼して全て放獣しているそうです。昨年度の放獣数は15件でした。かつてクマがスギの皮をはぐ林業被害を起す有害捕獲の許可を出していましたが、今もそういった要請があれば有害捕獲の許可を出す体制はあるものの、被害防止のためのテープ巻きが進んだり、木材の価格低下で被害額が大きくなった額にならなく



滋賀県庁自然環境保全課訪問

なったりで、捕獲申請がなくなり、クマを殺さなくなったのだそうです。



京都府庁農村振興課訪問

えましたが、担当者は山に入っておらず、隣接の滋賀県でクマの捕殺が毎年ほぼないことをご存じありませんでした。クマ爆発増加に対しても特に疑問を持っておられませんでした。京都府は平成29年から予察駆除と称するクマ対応を導入し、人間が使用している場所から2

●京都府は爆発増加として予察駆除名目で被害がなくても殺処分

令和2年まで京都府でもクマは保護対象でしたが、生息推定数を階層ベイズ法に変えてWMOに推定してもらったところ爆発的に増加しているとの結果が出たとして、令和3年からクマは第二種特定鳥獣管理計画のもと管理(個体数を減らすための殺処分)対象になりました。戦後の拡大造林政策で造られた人工林は放置されたままで内部は真っ暗、昆虫は激減し、ナラ枯れで多くのミズナラが枯れ、ブナはシイナ化、クマの食料が激減しているのにクマが爆発増加するのはおかしい、一体何を食べて増えているのかと訝

00m圏内に大量に設置されたシカやイノシシの箱罾やくくり罾にクマが掛かると、銃で殺処分してクマの個体数を減らす方針に転換したそうです。このため捕殺数が一気に増えたのです。これらの罾にはクマが大好きな米糠が誘引剤として使用されていますから、山からクマをおびき出して殺していることになり、問題です。京都府は、どこまで本当かわからない野生鳥獣の生息推定数だけを見て対応しており、令和4年度も野生動物捕殺事業に年間3億円使っています。野生鳥獣が山から出てこなくてもいいように生息地を復元してやったり、被害防除対策を強化することにもっと予算を使うべきだと思います。行政を変えるには京都府民の声が必要です。



クマタカ

尾根筋風車 開発を止めるために、猛禽類の調査を開始!!

本部 研究員 羽田真尋

給できる条件等を満たす広大な生息地が必要で、奥山の開発で彼らの生活は危機に陥ります。特にイヌワシとクマタカは環境省のレッドリストで絶滅危惧種に指定されている希少な猛禽類です。生息が確認できれば、風車建設が止まる可能性があります。

国有林を中心にこれまで数々の森林破壊を止めてきた、「日本の天然林を救う全国連絡会議」事務局長の渡部康人氏の「森林破壊を止めたいなら、熊森も、猛禽類の調査をすべき。自分が指導する」

東北地方や北海道を中心に再生可能エネルギーによる森林破壊事業計画が目白押しで、奥羽山脈の緑の回廊を含む広大な国有林が開発の危機に瀕しています。風車建設は巨大なブレードを運び上げるため尾根だけでなく、その道中の森林も大量に伐採されます。また高速回転する風車のブレードに鳥が衝突したり、コウモリがブレード通過時の気圧変化で命を落とす事故が多発しています。

風車によって希少猛禽類被害の恐れ 調査に着手!

捕殺に頼らない シカ対策を全国に!

本部 主任研究員 水見竜哉



シカの被害対策

■ 獣害対策に必要なのは、現場を見る目

熊森本部は、昨年から兵庫県六粟(しそ)市で黒豆畑をシカから守る農家を支援しています。

被害対策に必要なのはその野生動物の特性と対策場所がどのような環境かを把握することです。試行錯誤によって現場を見る目を養っていくことが大切です。苗の葉が柔らかい時期と、豆の収穫1週間前の2回、シカが畑に入ろうとすることがわかりました。それ以外の時期は、ネットが倒れても被害はほとんどありませんでした。シカがいつ畑に来ているのかを突き止めることができたので、捕獲をせずに畑を守ることが成功しました。

日本では1999年に、当時の環境庁

■ 大量捕殺を続けてもシカ被害は減らない

今年も、地元の方と共にシカ対策をしています。野生動物の性質やどうしたら被害を減らせるかを伝えることも、自然保護団体に必要とされていることです。

野生動物保護

が、鳥獣保護法に、被害がなくても「個体数調整」名目で野生鳥獣を捕殺できる制度を導入し、大量捕殺が始まりました。

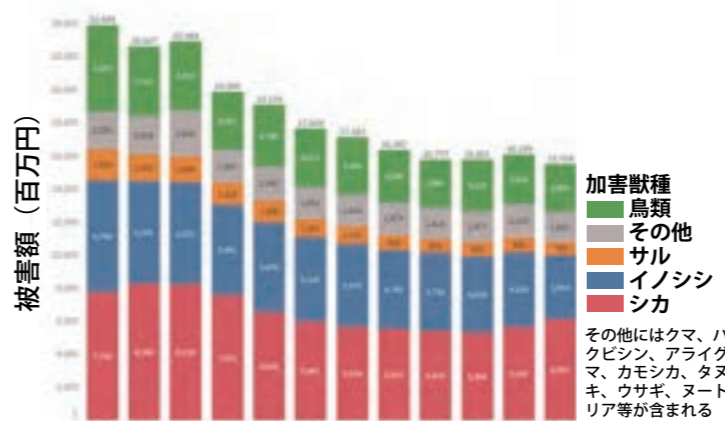
また、2007年には拡大する農業被害を減らすと、農水省が「鳥獣被害防止特措法」を制定。以来、国は毎年市町村に約100億円もの交付金を配分しています。法制定時、熊森は、この交付金が野生鳥獣の捕殺一辺倒に使われないよう動きました。そして、当時衆議院議員だった赤松正雄顧問らのご尽力で、予算が「生息地再生にも使える」ように、法文に入れ込むことができました。法律制定後、熊森は全国1800市町村に対し、この交付金を、鳥獣の生息地復元と被害防除に使うよう意見書を送付しました。しかし、以来15年、残念ながら、生息地復元に使われた例はありません。

農水省は2011年、10年間でシカ・イノシシの生息数を半減させると宣言して捕獲を奨励。近年、シカ・イノシシを年間計100万頭以上捕殺しています。シカに関しては被害額が減らない上(下図左グラフ参照)、殺してもすぐに増えるので、思うように数は減少していません(下図右グラフ参照)。その上、シカ・イノシシを捕獲するために大量の罠が設置されるようになって、ツキノワグマなどが誤って捕獲される「錯誤捕獲」が増しており、そのまま殺処分される例が多くなって、大きな問題となっています。生き物たちの命の尊厳を忘れて鳥獣被害対策を鳥獣の捕殺中心で解決しようとする現体制を、生息地再生や被害防除対策による棲み分け推進体制に転換していくべき時だと、熊森は提言します。

二ホンジカ(本州以南)の推定個体数と捕殺数

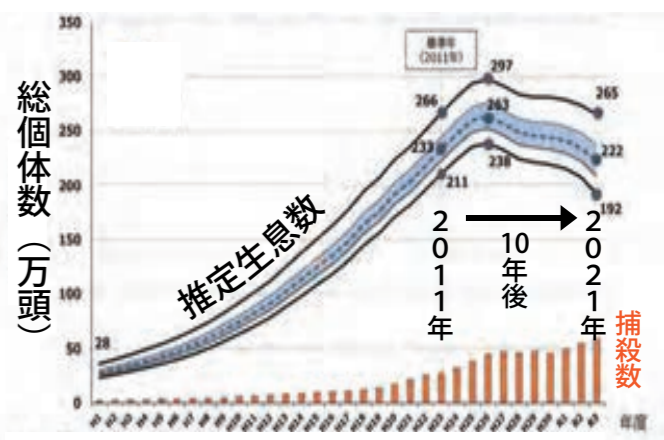
- 令和3(2021)年度末における二ホンジカ(本州以南)の推定個体数は、中央値で約222万頭(90%信用区間約192~265万頭)。
- 二ホンジカの個体数は、減少傾向が継続していると考えられるものの、依然として高い水準にあります。

野生鳥獣の被害金額の推移



農林水産省 HP より

(平成1年~令和3年)



環境省 HP より

調査方法はシンプルで、双眼鏡を用いてひたすら稜線を眺め、猛禽類らしき鳥を探します。発見したら望遠レンズが付いたカメラで鳥を撮影し、拡大して確認します。発見した場所、時間、飛翔ルートを地図に書き込みます。これを1日中繰り返していきます。

風車計画地のそばでクマタカの撮影に成功!

調査は宮城県で2月と4月に合計5日間行いました。イヌワシやクマタカの繁殖行動は冬に始まります。2月は巣を作り、産卵の準備をする時期です。縄張りを誇示するため上空を飛び回るので撮影のチャンスです。雪が数m積もって通行止めが多いなか、時々襲い来る吹雪に耐えながらの調査でした。4月は木々の新芽が開き、山に緑が多くなってきます。この時期は雛が孵化して、多くの食糧が必要になってくる時期です。まだ残雪があるなか、通行止めが解けたので広範囲を探し回りました。

結果として、イヌワシは見つけられませんでした。5日間の調査で6度クマタカの撮影に成功しました。羽根の欠損状況の違い等から個体を識別し、他の資料と合わせて考察した結果、この場所はクマタカの縄張りが密接に隣り合っており形成されている場所だと仮定



今回の調査でクマタカの悠然と飛ぶ姿を目の当たりにし、命の素晴らしさに心震える思いがしました。得られたデータを活用し、彼らの生息地を何とか風車から守ってやりたいです。

無断転載禁止

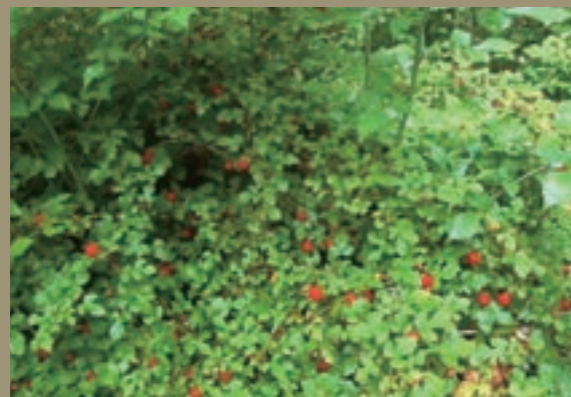
今年6月、このトラスト地の数本のスギの木に、親子のクマがスギの木の皮を剥いで樹液を食した真新しいクマの皮ハギ痕がありました。残り少ない、四国のツキノワグマたちがこうやって毎年確実にこのトラスト地のスギを利用していきますので、将来的にはこの人工林の50%のスギは、クマの皮ハギのために残しておいてやろうと思っています。会員の皆様の会費や寄付で、四国のクマの餌場復元はここまでできました。本当にありがとうございます。今年も一月に、ここで実のなる木の植樹活動を行います。標高1000mの山林まで片道2時間急な山道を歩きますが、体力に自信のある方は、ぜひご参加下さい。

■まだ四国のクマたちは生命を繋いでいる

ナラガシワなどのドンダリの苗木を60本植え、高さ2mのシカ除けネットで囲いました。残念ながら3年後には半数の苗木が枯れていました。現在、この場所には計20種2303本の稚樹が自然に繁茂しています。現段階ではそのうちの9割はクマが大好きなクマイチゴで、びっしりと生育しており、実の総量はかなりの量です。クマはシカ除け網の支柱に入りますから、餌の少ない夏場のクマの腹を少しはこのクマイチゴで満たせると思います。植樹もいいけど、自然の再生力の方が勝ることを体感しました。

2019年～2023年現在までに 植栽93本、計1.63ヘクタール伐採

人工林
94% → 87%
(7%減)



クマイチゴの実
2023年6月 高知県香美市
熊森協会トラスト地園の中 (伐採から4年後)



伐採から4年後(シカよけ囲いをしてから3年後)
自然再生された植物で埋まる 2023年6月

絶滅寸前四国ツキノワグマの餌場復元 クマが餌場として利用できる環境をめざして

標高1000mを超えるところまでスギ・ヒノキの人工林が続く四国山地。そこに残された野生のクマはわずか十数頭。絶滅寸前の四国のツキノワグマの生息数回復に向け、2018年から熊森は餌場復元に動き出しました。



四国くまもりトラスト地で撮影されたクマはぎ。スギの皮をはいで樹液をなめたり、形成層をけずりとりしたりした跡がある。左が母グマ、右が子グマと思われる。2023年6月26日

■苦勞の4年間

熊森は、2018年10月に、高知県と徳島県の境にあるクマ生息地の真つただ中に高知第二トラスト地「佐保の森」22haを購入。人がまともに歩けないほど急峻な山道を整備しながら、2019年からトラスト地内の94%を占める放置人工林(上方はヒノキ、下方はスギ)を森林組合などのプロに依頼して、徐々に伐ってもらってきました。材を搬出する方法がないため、伐り置きです。これまで、計9回の作業を実施。熊森本部スタッフや四国会員、地域おこし協力隊も手伝ってきました。伐採跡地には、取材に来た新聞記者も含め約50名の方々が、実のなる木を植樹しました。

■伐採は難航

頂上近くの平地で50年近く放置されてきたスギやヒノキはそれなりに太く立派に育っており、伐採には高い技術が必要です。しかも、2m四方に3本、4本という高密度で林立しており、一般的な林業間伐では、掛かり木の多発が予想されます。そこで、20m×80m四方の小面積の皆伐地をパッチ状にいくつも作る群状間伐を実施しています。

■自然の再生力のすごさ

最初の伐採跡地には、クヌギ、クリ、

無断転載禁止

地域活動

生息地だからこそ、クマのことをよく知ってほしい 新潟県の動物園で初のくまもりイベント!



どうしてクマは山から下りてくるのか。その理由をわかりやすく伝える紙芝居「ドングリの森を守って」 於：樽が橋遊園（胎内市）

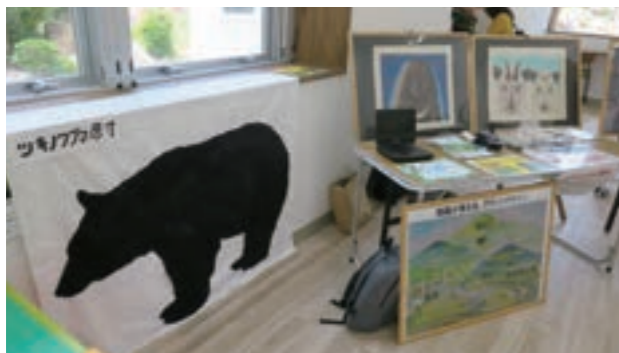
新潟県は比較的豊かな自然が残っています。ところが、近年クマとのあつれきが増え、毎年、多くのクマが捕殺されています。村上市に住むくまもり会員の佐藤正陽さんは、この現状を少しでも変えたいと、本部の水見主任研究員とともに、この1年、講演会や地元学習会などを積極的に実施してきました。

佐藤さんの尽力で、5月21日に「クマとの共存を考えるイベントと展示会」を開催することができました。ここは、新潟で唯一ツキノワグマが飼育されている動物園で、10年前に子グマの時に保護されたクマちゃんが飼育されています。

展示では、魚沼市在住のくまもり会員で版画家の赤祖父ユリさん（81）の動物版画も披露されました。

新潟県は、山間部だけでなく、平野部や海岸までクマが出てくる場所があり、参加者のみなさんには、「紙芝居が感動的でした。子供でも大人でもわかる話ですね」「クマが出たら、実際どうしたらいいのか具体的にわかってよかったです」「クマって、肉食動物じゃないんですね」などと、とても関心を持っていただけました。

これからも野生動物の本当の姿を知り、向き合い方を考える機会をより多く作っていききたいです。



クマの実寸大布や毛などに触られる展示スペース。



●実演イベント

クマに出会わないようにするにはどうするか、出会ったらどうするか。



えひめ千年の森にて 右から三番目が鶴見先生・後方に奥様の恵子さん

えひめ千年の森の視察・研修会

愛媛県支部 副支部長 三谷雅子

6月10日と11日、「えひめ千年の森をつくる会」会長で、熊森会員でもある鶴見武道先生（元愛媛大学農学部教授）と、事務局長で鶴見先生の奥様の鶴見恵子さんが始められたえひめ千年の森を見学しました。「えひめ千年の森をつくる会」の会員や熊森愛媛県会員、本部からは室谷会長と息子の海智くん、水見さん、羽田さんが参加されました。

この森は、約20年前に10haある針葉樹林伐採跡地を購入し、今までの約3千人ほどの手で地拵え、植樹、下刈り等を行ない、約2万本のヤマザクラ、イタヤカエデ、コナラ、ケヤキなど多様な広葉樹の苗を植えてきた場所です。当時は、シカはほとんどおらず、現在もまだあまりいないそうです。今回の視察の目的は、植樹地が20年経ってどのような状態になっているかを見ることでした。

1日目 視察

鶴見先生によると、広葉樹を植樹後、自然にまかせた所は、まずアカメガシワやカラスザンショウなど荒地地に生えてくる木々が混み合っただけで、下草はあまりなかったそうです。

2年間だけ、草や先駆種を刈った所は、3年苗で植えたヤマザクラやコナラなどが元気に大きく育っていました。

2日目 視察

8名が参加し、海拔500mの棚田に建つ鶴見先生のご自宅や棚田等を見学し、広葉樹林化の話などをお聞きしました。

室谷会長は、かわいい海智くんを連れての参加、水見さん、羽田さんにはロープで上り下りを助けて頂いたり、動植物のことを詳しく教えて頂いたりと本部と支部の良い交流の場となりました。とても有意義だった2日間に感謝します。

広葉樹を植え、定期的に手入れしているところも見学しましたが、2年間だけ手入れたところの方が森らしくなっているようにも見え、「結局、手を入れるのがいいのか、入れないのがいいのかまだ判断できていない」という鶴見恵子さんの言葉が印象的でした。

いろいろな果物（スモモ、栗、柿、ブルーベリーなど）を植えた果樹の森というのも作られたけれど、一度は実をつけたスモモは全部枯れていました。隣が針葉樹だったため、果樹に十分光が入らなかつたからで、結局、環境に合わないものは淘汰されていくことがわかりました。

「森づくりは、千年の時とともに歩むものという思いを込めて、名前をつけた」という鶴見先生。これからもこの森を見守っていききたいです。

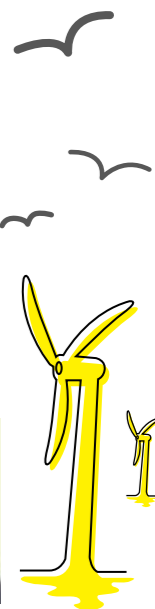
森保全

地域活動



青森県支部

支部発足！ 風力発電に、クマの捕殺調査に、 さあどうする、青森県支部



青森県支部長 石戸谷 滋

ある日かかってきた突然の電話が、あれやこれやの始まりでした。それは去年の10月初旬の、森山名誉会長からの電話で、10日後に青森で講演をするので、人集めをしてほしい、という内容でした。森山さんは青森県の八甲田山地に計画中の「みちのく風力発電事業」に強い危機感を抱き、急遽講演会の開催を思い立たれたようでした。

私はと言えば、その講演会のお手伝いをしたり、風車建設予定地の見学に同行したりするうち、森山さんの熱意に押され、うっかり「青森県支部を立ち上げます」と口走ってしまったのでした。

こうして支部を設立したのが今年の3月11日、ちょうど「みちのく風力発電事業」の現地説明会が開かれた時期でした。ところが、この説明会をきっかけに、青森県民が眠りから覚め、次々に反対を表明して、ついには6月の青森県知事選・青森市

長選で、候補者の事実上全員が「事業の白紙撤回」を公約に掲げざるを得なくなりました。

現在、ボールは事業者である「ユースエナジー・ホールディングス」に投げかけられた状態にあります。彼らがそれをどう投げ返してくるのか？ 事業を強行するのか、それとも撤退するのか？ 私たちはいまその決定を待っているところです。

待ちながら、私は思いました。私たちは熊森協会なのだから、風力についてだけでなく、クマのこともっと知らなければ、と。青森県で去年捕殺されたクマは152頭、彼らはどういう目的で、どういう手段で殺されたのか？ 青森県支部はそれを調査し、実情を把握することから始めなければなりません。とかくするうち、西目屋村の道の駅のレストラウンで熊料理が提供されている、という寒いニュースも飛び込んできました。さあどうする、青森県支部。

支部活動

自然観察会、イベント、 そして定例会は毎月開催しています。



愛知県支部長 山下 賢悟

みなさま、初めまして。半田市に住んでおります、山下賢悟と申します。昨年度末より、愛知県支部の支部長をさせていただいています。

熊森に入会してからはまだ日が浅く、これまで長く会員を続けてこられた先輩方と比べたら熊や森についての知識もありません。それでも入会してからこれまでに、小学校での環境教育や林業研修、イベント出店などに参加してきました。

私が日本熊森協会に入会した理由は、ここなら生き物や森を守るために何かできるかもしれないと思ったから。一人だけではいくら大切にしたい気持ちがあっても、何かできる気もしないし守れるという実感もな

うスケールだから。熊を始めとする生き物たち、それらと共に生きている森にとっては、地球の温暖化や日本各地で行われている再生可能エネルギーのための開発など、とても厳しい時代になってきていると感じています。

そうしているのが人間なら、それを止めて戻すことも人間がするべきだと思うし、できると思っています。でも、あれも反対、これも反対という活動ばかりでは正直疲れる心が折れそうになりますよね。毎月開催している定例会の中で「おいしい、楽しいは正義！」という声がありました。私もまさに同じ気持ちです。

ただ「おいしいければ」「楽しいければ」何でもいいではなくて、森のこと、たくさん生き物たちのことを想い、それらを守ることに繋がるという意識を持って、みなさんと一緒に楽しく活動をしていけたらと思っています。

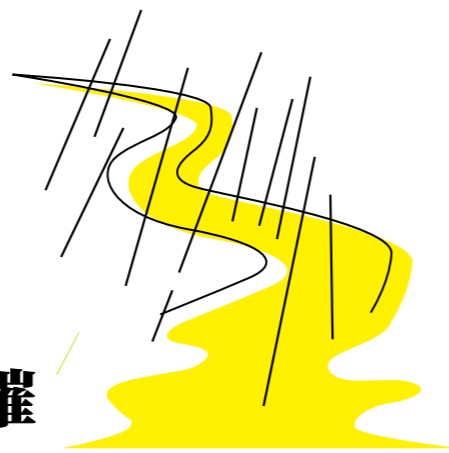
今年も犬山の自然観察会や岡崎で出店を予定しています。定例会も毎月名古屋で開催していますので、愛知県支部のみなさま、ご予約が合いましたらどうぞご参加ください。みなさんと直接お話しできたらと思っています。どうぞよろしくお願

愛知県支部

それはそうですよね、結果が見えるのは自分も死んだずっと先、何十年、何百年とい

埼玉県支部

水害が多い昨今、 備えることの大切さを学ぶ 嘉田由紀子 顧問の講演会を開催



埼玉県支部長 池田 幸代

7月9日に埼玉県支部では参議院議員で埼玉県生まれの嘉田由紀子顧問の講演会を埼玉会館で開催しました。タイトルは、「水への畏敬、そして備え〜流域治水はみんなが主役〜」。嘉田さんが長年取り組まれてきた流域治水の在り方や洪水への備えなどについてお聞きしました。

川だけでなく、川の外、私たちが暮らす住宅地や道路、公園、学校など、どこでも治水を意識し、暮らしの中で「洪水への備え」を日常化することを流域治水といいます。

一番のポイントは、大雨の時にどこにどれだけ浸水が広がるかを示した「自然災害被害予測」を確認すること。自分の身のまわりにはどのような危険があるかマップを見て「危険性を知って備える努力」をすること。そして普段から地域自治会や学校の通学グループの中などで危険性を知る活動を進めていくことが大切だということです。

洪水は怖い、だから抑えこもうと思っても、ダムを造って抑え込むことには限界があります。あふれた水を入家のないところに誘導するなどの先人の知恵をもっと見直すべきです。自然の猛威は人間の願いをこえて襲ってきます。私たちが備えるべき心構えは、「自然は人間の都合どおりにはいかない。特に水の存在価値や恵みと災いはセットであり、水への畏敬の念を心に刻んでこそ、備えができるのではないか」と話されていました。



講演中の嘉田由紀子 顧問

支部活動

無断転載禁止



豊かな自然を守る子どもたちを育てる活動を全国で ～全国一の林業県で、くまもり環境教育～

露出している山肌。皆伐地は杉が再育林されているか放置されている宮崎県の山の風景。



北浦小学校 2023年5月15日

環境教育



東京都クマ生息地

このトラストは、東京の会員が10年近く前から動いてくださり、山梨県支部長である坂名井良子さんのご寄付により実現しました。ご協力いただき心から感謝申し上げます。

首都に、わずかですが、まだクマの棲む森が残されている。こんな国は、世界でも日本だけではないでしょうか。東京都のクマ生息地にトラスト地を持ちたいという願いが実現しました。

トラスト地の大半は、東京都との契約による分取造林地で、ヒノキが植わっています。一部には、自然林があり、イヌブナやコナラ、ミズナラなど、本来の奥山の自然植生が残っています。周囲は、自然林も多く東京のクマ生息地の中心に近い場所です。クマも利用したり、通過したりしているようで、周囲のスギの木に数年前のクマがスギの皮をはいだ痕跡も見つかりました。

祝 東京の山初トラスト! 17.5 ha ~

奥多摩のクマ生息地
購入報告
山梨県支部長 坂名井 良子



奥多摩トラスト地の尾根

全国の日本熊森協会のみならず、まにうれしいご報告をさせていただきます。かねてより私の宿題であり、念願でもありました山を買ったことができました。

2012年、山梨県甲府で森山まり子名誉会長の講演会を開催しての打ち上げの席です。先生が「クマが生息する山を探して買ってください」とおっしゃられました。「山を買って、私はかつて思いもよらなかったことを聞きましたので、たいそう驚きました。いったいどこにそんな山があるのだろうか」と云をつかむような命題に、途方に暮れました。そこから、「ヤマカオウ」が私の長くて難しい宿題になりました。

家を売却したとき、その代金の一部を山を購入するために役立ててほしいと本部に申し出ました。私の親は生粋の江戸っ子で、常々「墓場まで金なんか持ってくんだよ」が口癖で、生き物をこよなく愛する人たちでした。物言えぬ動物に優しい両親でした。私はそんな父母の意志を十二分に活かしたいと決めていました。いざれ私という人間が亡くなっても山はそこにあり続けますし、なにより熊森協会はクマたちがそこで安心して過ごせるよう森を守り続けてくれるでしょう。その姿を想像すると本当に大きな私の喜びになります。

その頃、東京のシンポジウムで、偶然、東京会員の池田厚雄さんと再会しました。当時、池田氏も東京で山を買えないうものかと地道な調査で山主さんを探しておられました。お互い命題「ヤマカオウ」で盛り上がり、「いずれ山を購入しましょう」と固い握手を交わりました。いつしか時が流れましたが、昨秋、池田さんから突如、「山を買つたら今ですよ。東京の既知の山主さんを紹介します」と連絡がございました。その山は私の生まれ故郷の東京都にあり、現在私が住んでいて墓もある山梨県やお隣の埼玉県、神奈川県とも繋がっています。

人工林の皆伐が進む宮崎県

宮崎県支部の鶴永支部長から本部に、三川内小中学校（5・6年生）、北浦小学校（5・6年生）、北川小学校（3・6年生）3校で環境教育をしてほしいという依頼が来ました。

本部 環境教育担当 工藤真那

林業が盛んで人工林が多く、最近では皆伐も進んでいる宮崎県。山の現状を少しでも子どもたちに伝え、山や自然を大切に育てる気持ちを持ってほしいというのが、宮崎県支部のみなさんの願いです。延岡市在住の谷平興二会員の協力もあり、4年ほど前から支部では環境教育を実施していましたが、

ナなどで最近ストップしていました。今年になり、延岡市の小学校で校長先生をされていたこともある神崎勝久会員が山の大切さを伝えるくまもり環境教育を宮崎でもして下さいと機会をつくってくださいました。

「宮崎県では10年ほど前から木材の価格が上昇しており、どこもかしこも伐採されている。そのうち伐る木も無くなり、山がもつと荒廃するのではないか」鶴永支部長は、将来を考えない今だけの大規模伐採に不安を覚えています。

工藤は宮崎県に生きている子どもたちに少しでも自然のことを知り、林業も大切だけど、自然と共存していかないと、林業を続けられなくなることや、自然を守るために活動している大人たちがいることを知って、将来に希望を持ってほしい、そう思いながら宮崎での環境教育に取り組みました。

●林業県でも、自然の森の大切さも知ってほしい

前半を工藤が私たちの生活を支える森の機能と、森を造る野生動物たちのお話をし、後半は鶴永支部長による森の保水力の実験を行いました。

プラスチックケース2つに赤土を入れ、片方に腐葉土を敷き詰めて、天然林と人工林の地面を作ります。両方に同量の水を流し込むと、人工林の方はすぐに濁った水が流れだしますが、天然林の地面は数分経ってから少し濁るだけという実験です。

目に見える結果の違いに子どもたちは大盛り上がりでした。



森の保水力の実験

知らないことだらけでびびりもしました。人間には森が絶対必要だと知って、おどろきました。実験で人工林と天然林とは出てくる水の色や量がすごくちがったので、おどろいたけど、勉強になりました。

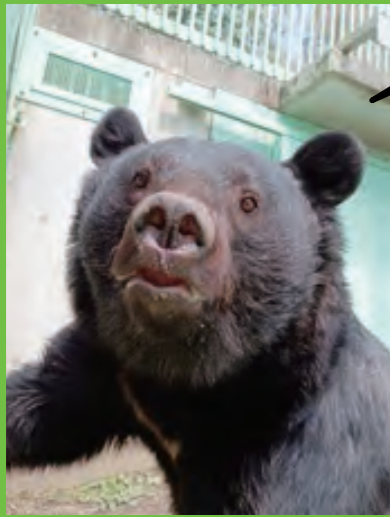
●全国で熊森環境教育を

子どもは生まれながらに、自然に親しむ心を持っています。小さな頃に自然の仕組みや、様々な命に触れる経験をしてあげれば、大人になった時、本当にこの森を壊していいのかが、生き物を殺していいのかわかってくるのか、生かすのかわかってくるのか。

全国の子どもたちに、くまもり環境教育を届けたいです。希望される方は、ぜひお気軽に熊森協会本部までご連絡ください。

無断転載禁止

トピックス



とよ

夏になり、ぐ〜っとスリムになりました。

大阪府 豊能町高台寺 京都府生れ オス とよ 13 才

【冬ごもり期間 12月中旬～3月上旬】

昨年の秋、冬ごもりのためにたくさんドングリを食べ、丸々と太ったとよ君。今年春の冬ごもり明けには貯えた脂肪がまだ落ち切らずでした。とよくんの健康をいつも気にしているお世話隊のみなさんは、食事に気を使い、野菜中心の食事を提供。その成果もあり、夏になって少しスリムになってきました。

くまと過ごす日々

母グマを捕殺され、みなしごとなり、現在は、和歌山の生石高原で山田順二さんのもとで飼育されている「太郎」と「くまこ」。大阪でイノシシ用の箱罠に錯誤捕獲され、殺処分寸前のところを救出され、豊能町の高代寺で保護飼育されている「とよ」。くまもりは、ボランティアのみなさんにご協力いただき、保護飼育のお手伝いをさせていただいています。

穏やかでとても知的な本来のクマの姿や、まだわからないことも多いクマの生態を知ることができています。彼らは、「クマは人とすみ分け共存できる」ことを伝えてくれています。

みなさんも、ぜひ、会いに 来てやってください！

太郎と花子のファンクラブ基金は 太郎とくまこ。クマ保護基金はとよのえさ代クマ保護活動などに使われます。ご協力をお願いいたします。

【太郎・くまこ限定】 ゆうちょ銀行 振替口座 00920-80487 099店 口座名「太郎と花子のファンクラブ」

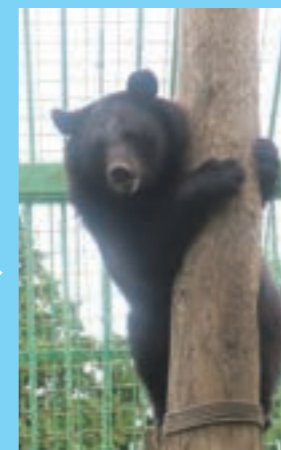
【とよ&クマ保護基金】 ゆうちょ銀行 振替口座 00980-7203246 099店 口座名「クマ保護基金」

くまこ

人が大好きで茶目っ気たっぷりなくまこ。



石川県生まれ メス くまこ 3 才



遊ぶくまこ

【冬ごもり期間 12月～2月中旬】冬ごもり中も周りが気になって時々起きてきていたくまこ。今ではすっかり大きくなり、大人の体つきになりました。でも中身はまだまだやんちゃ盛り。檻の中に作ってもらった遊具に登ったり、振り回したり、綱渡りをしたりと楽しそうです。でも一番好きなのはお世話の人や見に来てくれる人たち。誰かがやってきたら遊んでと言いたげに、近くにぴったりついて回ります。あまりにも近くに寄ってくるので、写真に柵が入ってしまって撮るのも一苦労。最近は換毛期で抜けた茶色い毛があちこちに着いています。

とよ



冬ごもり明け 3月

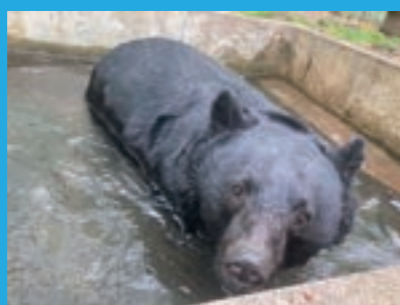


7月

お世話隊が調整してくれた野菜と果物中心メニュー



錯誤捕獲グマの保護飼育 大阪府豊能町高台寺 お世話日は、毎月第1、2、4 火曜日と第3日曜日です。



太郎

年を重ねる姿を皆で見守っています。

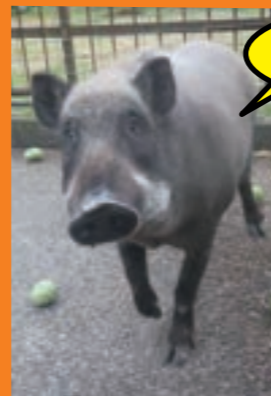


和歌山県生まれ オス 太郎 33 才

【冬ごもりせず】

人間でいえば 100 歳近くでしょうか。それでも水浴びが大好きで、小さなプールに入る太郎。夏は、毛皮が熱いのか、水浴びを繰り返しています。大きくなったくまこのことが気になるのか、くまこの近くでそわそわしている様子も見られます。暑さからか、年齢のせいか、食欲があまりない太郎くん。放置されているエンジン、食べないのかな、と思いながらカメラを向けるとおもむろに近づいてきてパクリ。しっかり食べているところが見れて一安心です。

ぽーちゃん



イノシシのぽーちゃん。すっかり夏毛になりました。地肌が見えるほどスケスケで涼しそうです。



太郎とくまこのところにはノートが用意され、遊びに来てくださった方々がメッセージを残してくださっています。

みなしごグマの保護飼育 和歌山県有田川町 お世話日は、和歌山県支部（第1・3日曜）、兵庫県本部（第2・4日曜）



ボランティアさんが、日よけを張ってくれたくまこ太郎の獣舎

太郎と花子のファンクラブ

2022年度総額 49万9千円ご寄付者の皆様 (敬称略) ありがとうございます！

阿部友紀子 芦辺正人 永井桂子 喜多美千代 吉田有美 休井知恵子 栗原正史 今井はま子 佐々木重臣 佐藤一秀 山本洋子 山崎初代 松下紀史子 松尾敏之 森田和枝 須藤のり子 生野千代子 西嶋祐紀代 石井重則 石田キヨ子 善田美香子 大倉圭子 大島愛子 大林伊津子 谷口安子 池田満喜子 中村寧子 中村明代 長田典子 塚越育子 南楚千代子 平松希望 保泉昭子 堀美美紀 柳田礼子 圓田章三 高田たき子

ほぐくまたち

ほぐくまたち

■日本熊森協会 法人会員（都道府県別）

2023年8月1日現在

企業会員

明治安田生命保険幌南営業所	北海道	オーセンテック(株)	神奈川県	(弁)東大阪総合法律事務所	大阪府
マルソー(株)	新潟県	上昇運輸(株)	石川県	(株)イワノ	大阪府
(医)小川医院	茨城県	(株)アライアンス	石川県	(株)シーエスハラダ	大阪府
星野管工(株)	群馬県	飛騨産業(株)	岐阜県	(弁)あすなる	大阪府
(有)長谷川電機商会	埼玉県	(株)伴電気商会	岐阜県	合同食品株式会社	大阪府
(株)日本ウォーターテックス	埼玉県	(株)プレマ	愛知県	(株)尼崎工作所	兵庫県
(株)セレモ	千葉県	(株)メイコウ	滋賀県	ダイワ運輸(株)	兵庫県
(株)祐真	東京都	(有)アルペリフィルス 紀伊國屋	滋賀県	やまと呼吸整体	兵庫県
(株)学夢堂	東京都	(株)トータルヘルスデザイン	京都府	(株)Lightning&Star	兵庫県
アカデミア動物病院	東京都	朝日商工(株)	大阪府	(株)ネイチャー生活倶楽部	熊本県
(株)Major 7th	東京都	豫洲短板産業(株)	大阪府	(医)杏子會	宮崎県
(株)ベアーズ	東京都	ムソー(株)	大阪府	(株)吉玉自動車工場	宮崎県
(有)コスモス	神奈川県	(株)ホワイトマックス	大阪府		
神谷コーポレーション(株)	神奈川県	(有)アイ・エー・シー	大阪府		

団体会員

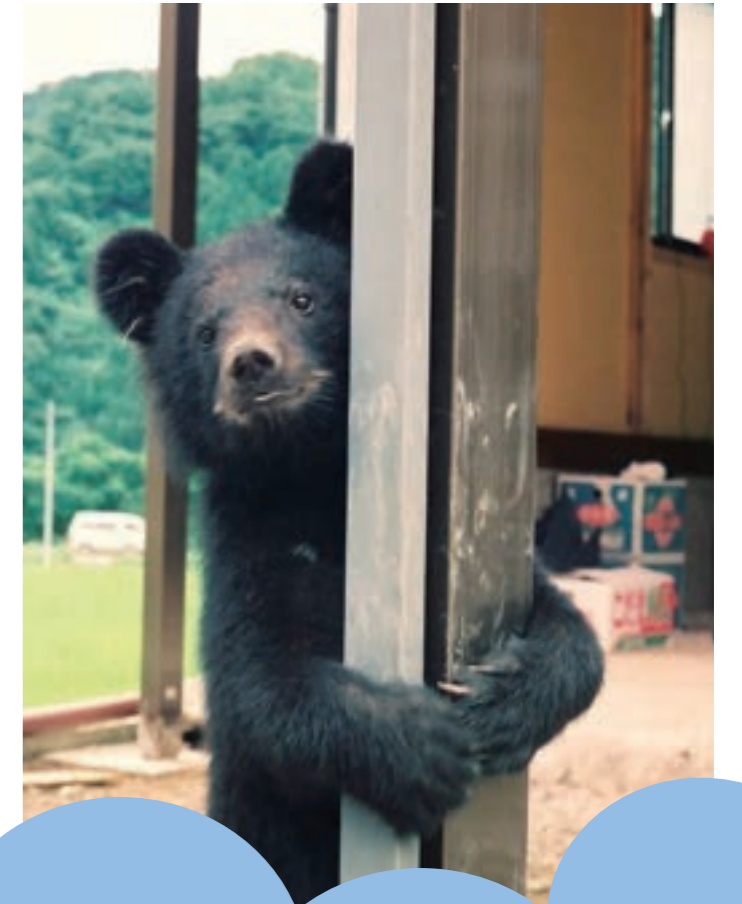
(有)仁井田本家あぐり	福島県	(株)わらべ村	岐阜県	尼崎プロバスクラブ琴寿会	兵庫県
(株)小松設計	千葉県	(有)島田家具工芸	滋賀県	和田山ロータリークラブ	兵庫県
(株)シーエスコオペレーション	東京都	(株)アタシオン	京都府	ドッグハウスK9	兵庫県
(株)シェア・ワールド	東京都	(合同)熊本物産屋	京都府	東城ロータリークラブ	広島県
(一社)シェア基金	東京都	木下音楽教室	大阪府	吉舎ロータリークラブ	広島県
(医)飯沼病院	東京都	西宮恵美寿ロータリークラブ	兵庫県	(宗)龍国寺	福岡県
(株)オリエントナノ	神奈川県	(株)ヒューマレッジ	兵庫県	(株)リンク・マーケティング	福岡県
ももちゃんの森の探検隊		第一電子(株)親睦会	兵庫県	公文東与賀教室	佐賀県
ぺこちゃんも	神奈川県	西宮甲山ライオンズクラブ	兵庫県	(株)宮崎中央新聞社	宮崎県
(株)クリーンK	岐阜県	NPO会計支援センター	兵庫県	(有)角田	鹿児島県
森の研究所	岐阜県	(株)GEOソリューションズ	兵庫県		

■日本熊森協会 顧問（就任順）

2023年8月1日現在

宮澤正義	生物環境学・野生動物研究家【名誉顧問】 (ツキノワグマ研究第一人者)	船越康弘	民宿「百姓屋敷わら」経営
主原憲司	昆虫研究者(森林生態学研究)	石 弘之	元東京大学大学院教授 元駐ザンビア特命全権大使
赤木文生	国際ロータリー第2680地区バスターガバナー 元日本弁護士会 副会長	船瀬俊介	消費者運動ジャーナリスト
赤松正雄	元衆議院議員(元厚生労働副大臣)	今本博健	水工技術研究所代表 京都大学名誉教授 工学博士
中野和子	公認会計士 税理士	平野虎丸	森林・林業アドバイザー 一般社団法人エコシステム協会理事
小林隆彰	比叡山延暦寺長 天台宗大僧正	林 将之	樹木図鑑作家
マルコム・フィッツァール	カピラノ大学名誉教授	馬淵睦夫	元ウクライナ大使 元防衛大学校教授
門崎允昭	北海道野生動物研究所 所長 農学博士 (ヒグマ研究第一人者)	藤田 恵	徳島県旧木頭村 元村長
大前繁雄	元衆議院議員(元防衛大臣政務官)	嘉田由紀子	参議院議員 滋賀県選出 前滋賀県知事
安積遊歩	ピアカウンセラー	安藤 誠	プロネイチャーガイド 野生動物写真家
安田喜憲	国際日本文化研究センター名誉教授 理学博士	片山大介	片参議院議員 兵庫県選出
西川節行	元広島大学教授 関西経済連合会	池田直樹	弁護士(大阪弁護士会) 日本環境法律家連盟理事長
橋本淳司	アクアスフィア代表 水ジャーナリスト	務台俊介	衆議院議員 長野県選出
		土屋品子	衆議院議員 埼玉県選出
		和田有一朗	衆議院議員 兵庫県選出
		飯田哲也	認定NPO 法人環境エネルギー政策研究所所長
		新 鈴木猛康	防災推進機構理事長 山梨大学名誉教授

熊森の マスコットグマ クロちゃん(メス) 32歳で天寿を全う



何かを訴えるような哀しげな目が、日本の野生のクマたちが置かれている現状を訴えているようで、「クマも生きたい」というフレーズをつけて、1997年の日本熊森協会結成時のパンフレットにクロちゃんの写真を使わせていただきました。

以来、くまもりのマスコットグマとなった、ツキノワグマの「クロちゃん」。今年7月1日に32歳で天国に旅立しました。赤ちゃんのときから家族として飼育されてきた山形県鶴岡市の佐藤八重治さんより、長年様々なご支援をくださった熊森の会員の皆さんにメッセージが届きました。

クロちゃんが永眠しました 山形県 佐藤八重治

クロちゃんとの出会いから32年と2カ月余り、小冊子「クマともりとひと」などでも写真が掲載され、多くの皆さんに感動と心の温もりを与えてきたクロちゃん、7月1日に天国に旅立ちました。

惜しまれながらお通夜、葬儀、お別れ会一連の儀式は終了したものの遺産、遺品整理が大変な作業で業務用大型冷蔵庫内の果物等の処分、檻の床面のコンクリートの解体等、考えてもいなかったことが次から次へと出てきています。



クロちゃんのお墓に花を供える佐藤八重治さん

令和5年2月22日以降体調を崩したクロちゃんの治療、介護、リハビリと寄り添って見守ってきましたが、7月1日ちくわといなりずしとポカリスエットを与えると食べました。午後1時、いつものように「クロちゃん、リハビリだよ」と言うと、今までになく元気に立ち上がり、入口近くまで来て転びました。そして立ち上がろうと檻に爪をかけ、そのまま息を引き取りました。スヤスヤと眠るように静かに旅立ちました。

クロちゃんはとても穏やかな性格で、いつも見学に訪れた人たちを出迎えるような感じでした。多くの方から愛され、親しまれてきたことに感謝したいです。なきがらは佐藤家の畑に埋めました。

皆さんこれまでどうもありがとうございました。



お葬式の様子